

世界のベストチョイスをお届けする独立系半導体商社

富士エレクトロニクス株式会社

平成25年2月期 決算説明資料

平成25年4月8日

〒113-8444 東京都文京区本郷3-2-12 御茶の水センタービル

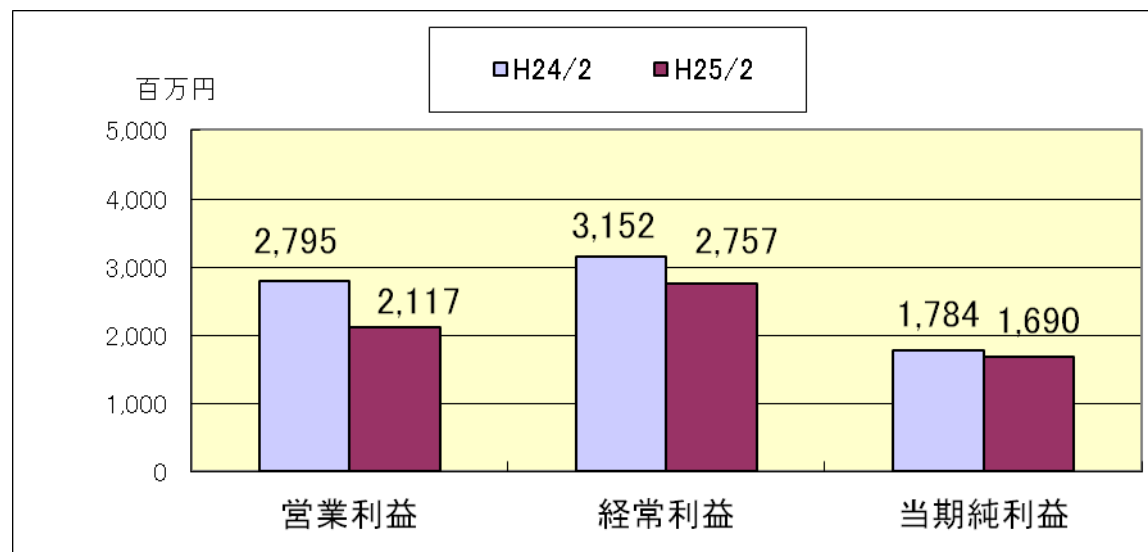
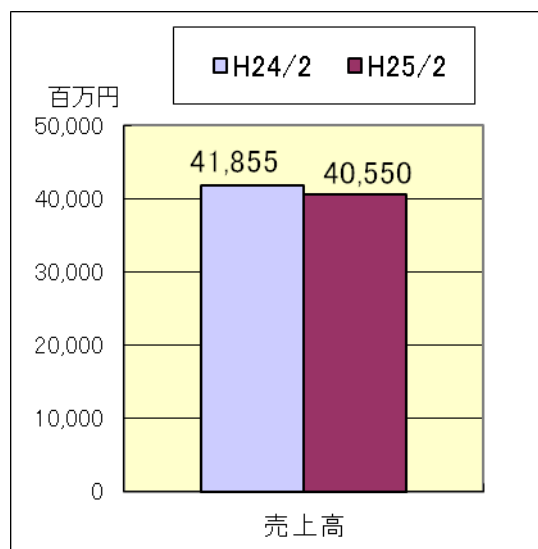
TEL 03-3814-1411(大代表) FAX 03-3814-1414

<http://www.fujiele.co.jp>

平成25年2月期 連結業績

百万円

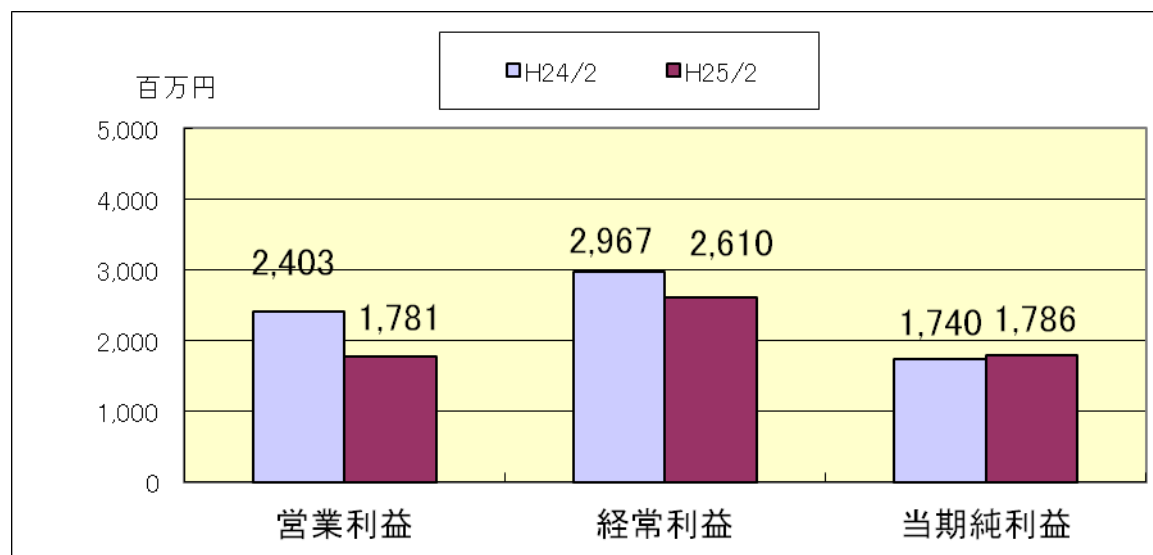
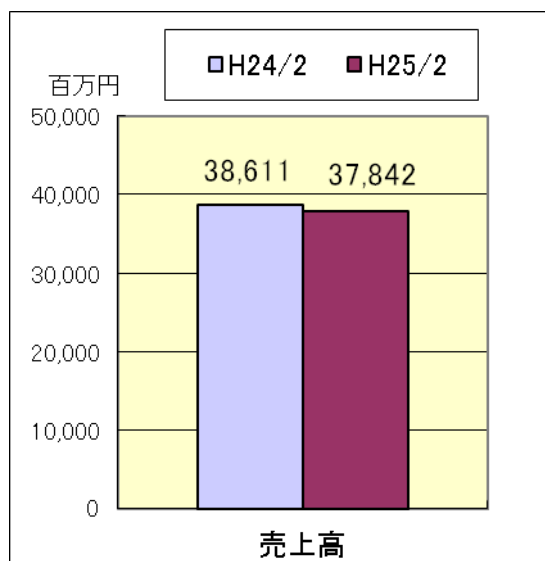
	平成24/2 実績	平成25/2 修正予想	平成25/2 実績	予想比 (%)	前期比 (%)
売上高	41,855	40,000	40,550	101.4	96.9
粗利率(%)	19.5	19.2	18.2		
営業利益	2,795	2,340	2,117	90.5	75.7
経常利益	3,152	2,730	2,757	101.0	87.5
当期純利益	1,784	1,630	1,690	103.7	94.7



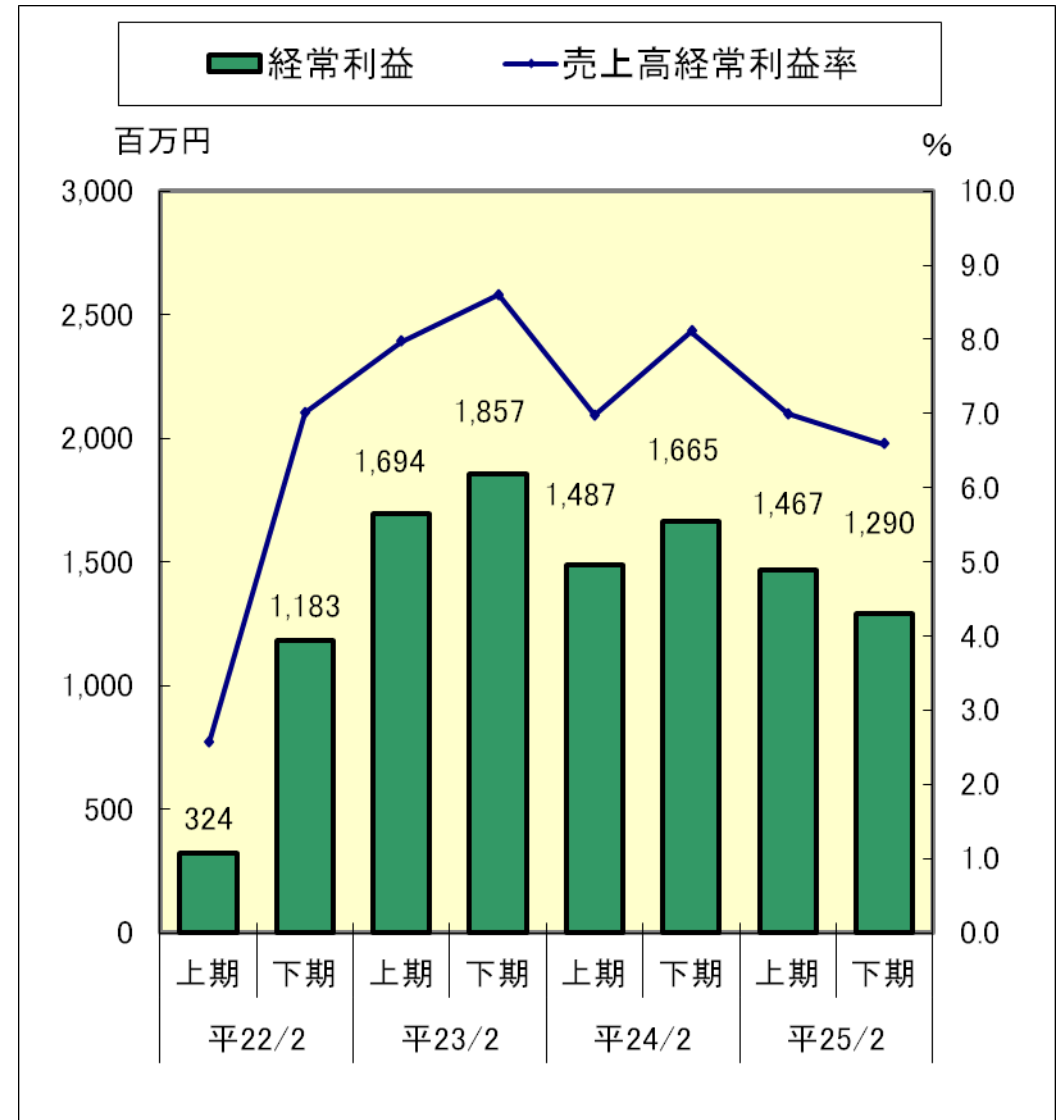
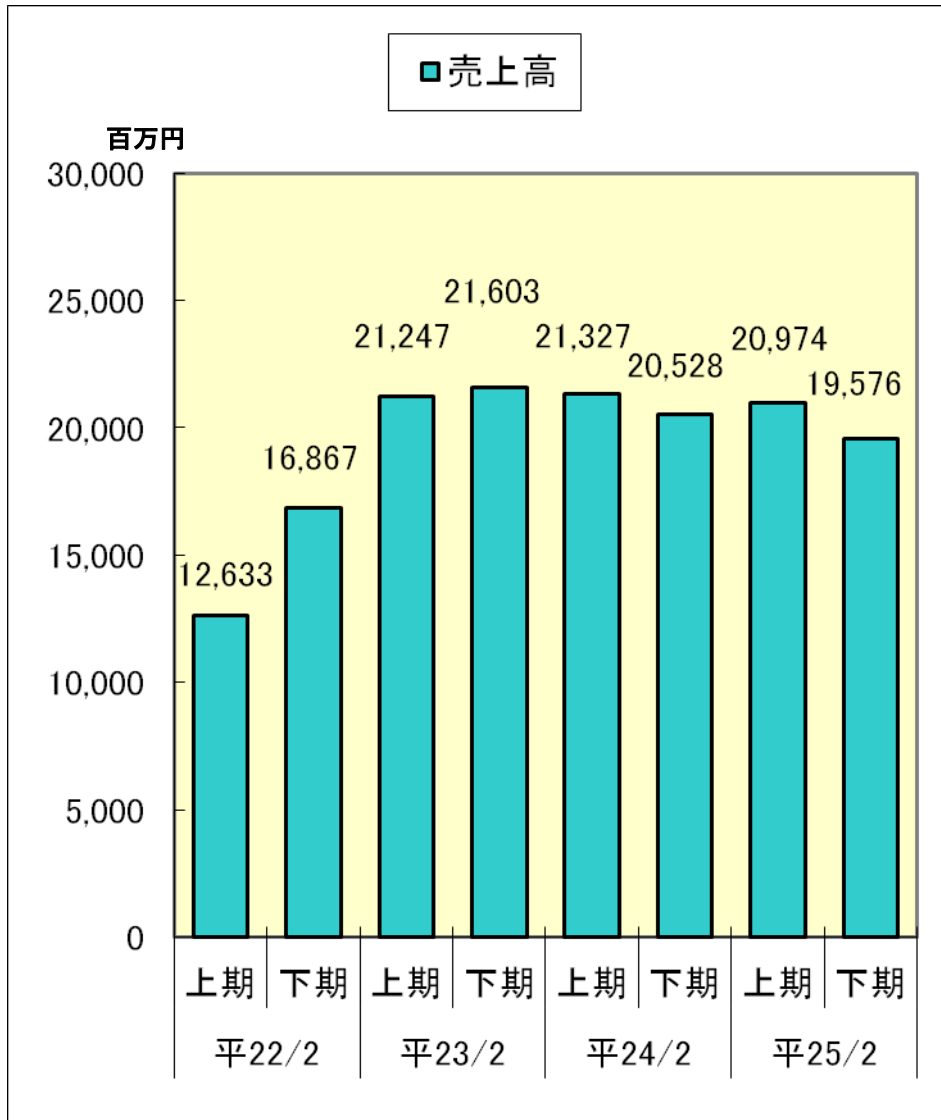
平成25年2月期 単体業績

百万円

	平成24/2 実績	平成25/2 修正予想	平成25/2 実績	予想比 (%)	前期比 (%)
売上高	38,611	37,000	37,842	102.3	98.0
粗利率(%)	17.9	17.2	16.6		
営業利益	2,403	1,760	1,781	101.2	74.1
経常利益	2,967	2,300	2,610	113.5	88.0
当期純利益	1,740	1,470	1,786	121.5	102.6



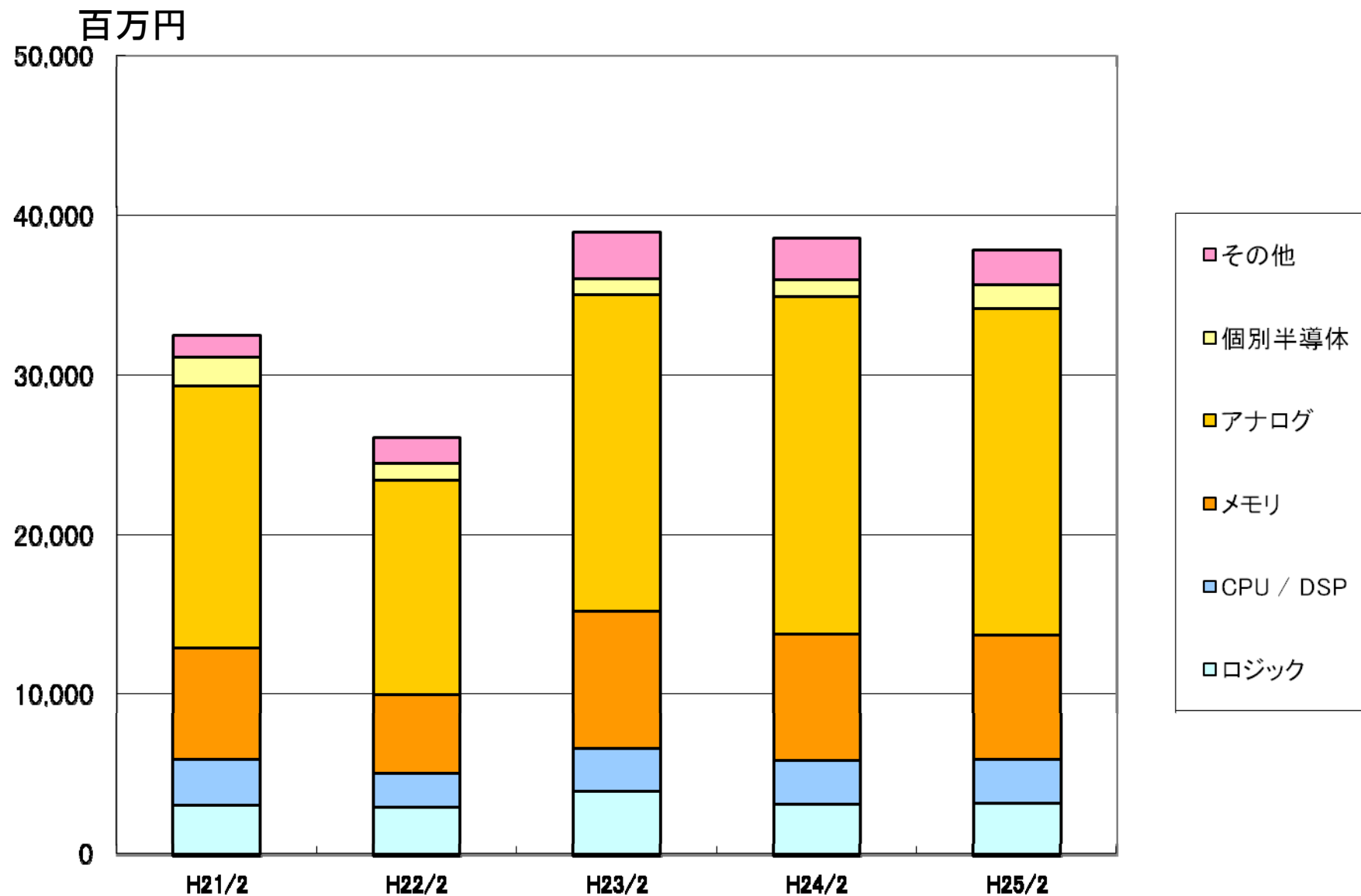
連結業績の推移



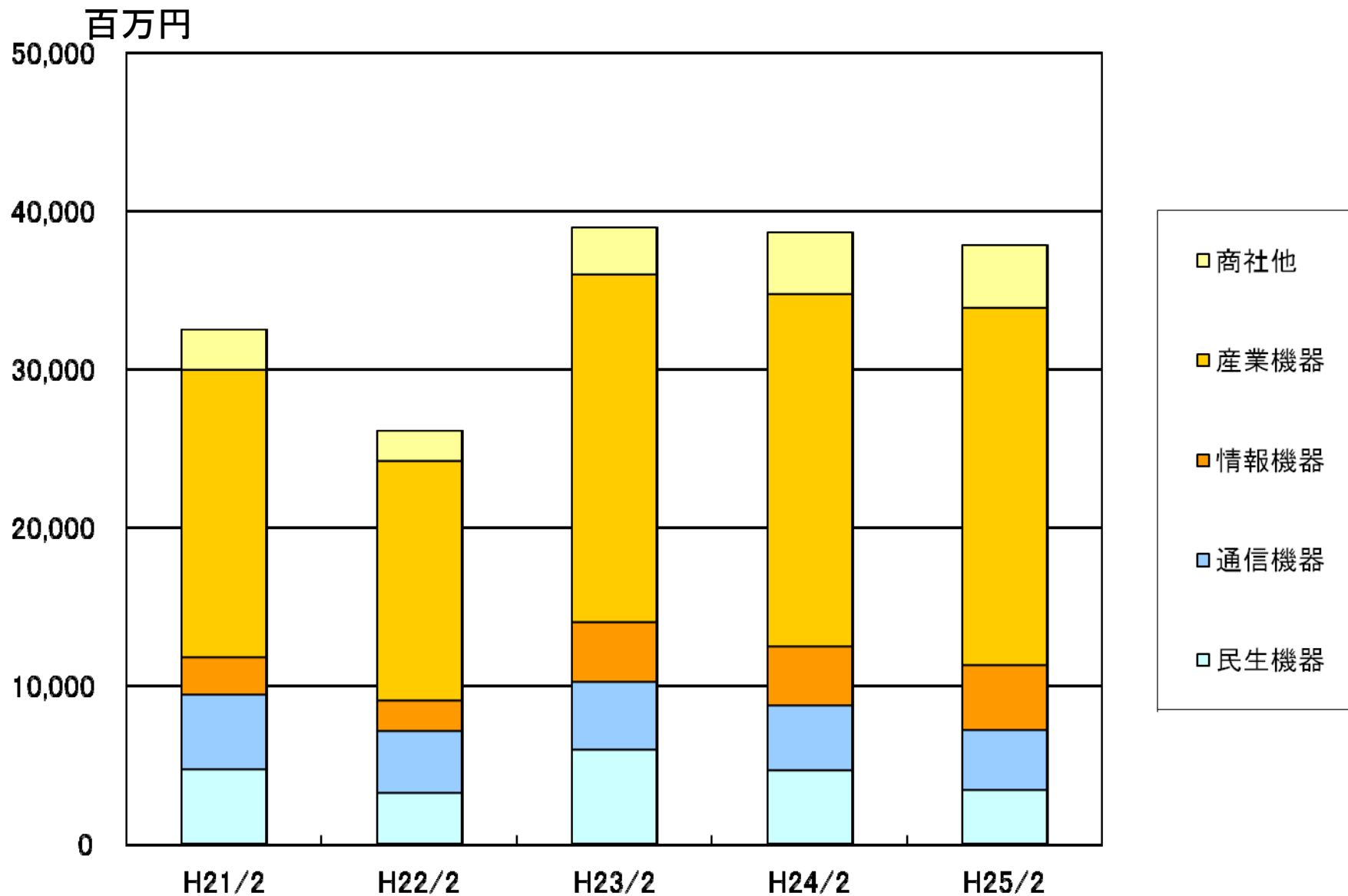
連結主要指標の状況

	平成24/2	平成25/2
総資産 (百万円)	33,832	33,955
純資産 (百万円)	21,492	22,290
当期純利益 (百万円)	1,784	1,690
1株当たり純資産額 (円)	1,500.01	1,591.95
1株当たり当期純利益 (円)	124.51	119.17
自己資本比率 (%)	63.5	65.6
自己資本利益率(ROE) (%)	8.5	7.7
営業活動によるキャッシュフロー (百万円)	1,661	2,186
投資活動によるキャッシュフロー (百万円)	1,023	△280
財務活動によるキャッシュフロー (百万円)	△982	△1,222
現金及び現金同等物の期末残高 (百万円)	12,061	12,807
従業員数 (名)	392	392

品目別売上高（単体）



用途別売上高（単体）



主な用途先と仕入先メーカー（単体）

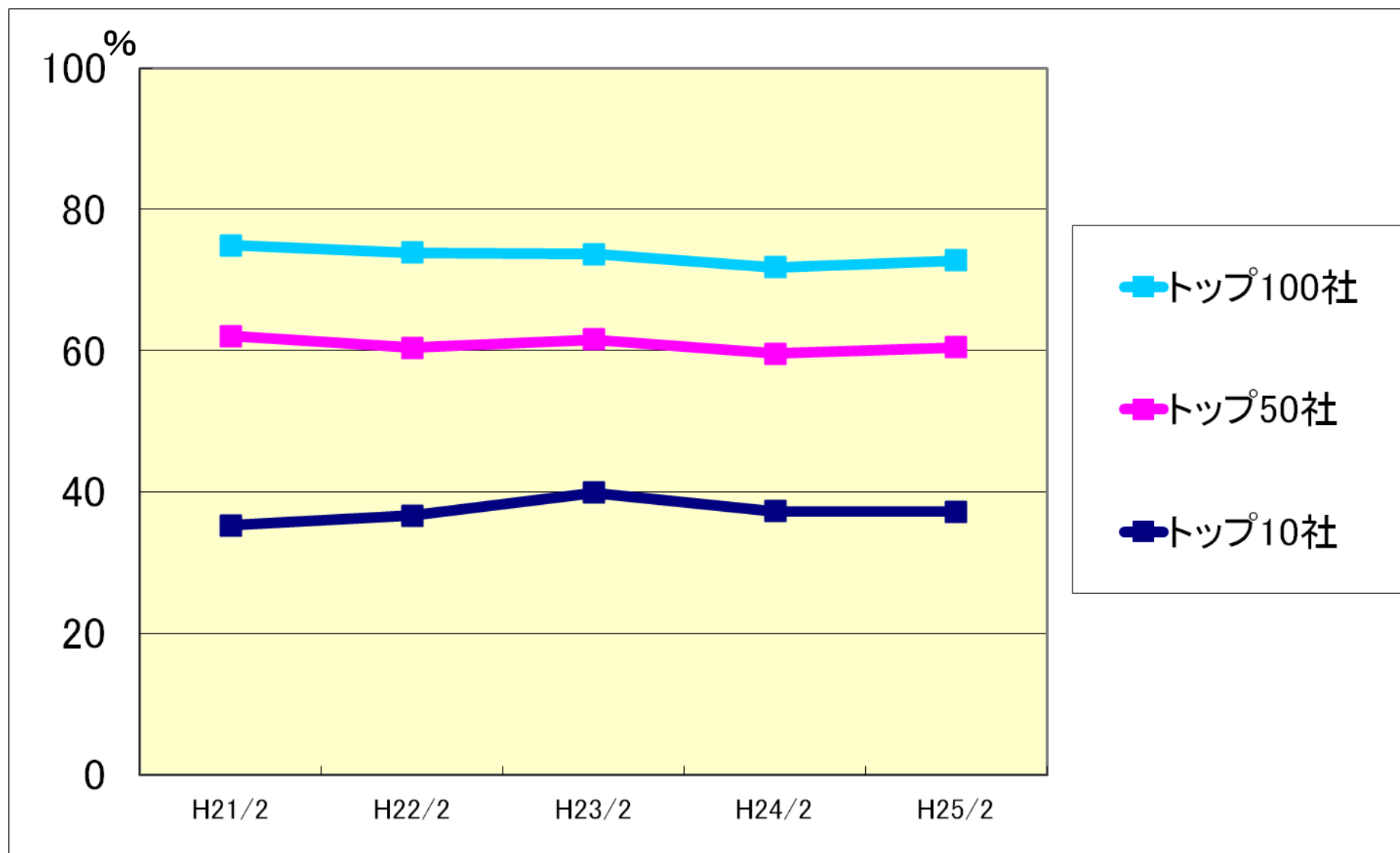
主な用途先

民生機器	カーナビ、オーディオ、エアコン、デジタルカメラ等
通信機器	携帯電話および基地局、次世代ネットワーク等
情報機器	PCおよび周辺機器、サーバー等
産業機器	FA機器等製造装置、半導体製造装置、計測器、事務機器、医療機器、モーター制御、電源装置、宇宙・防衛関係、アミューズメント等

主な仕入先

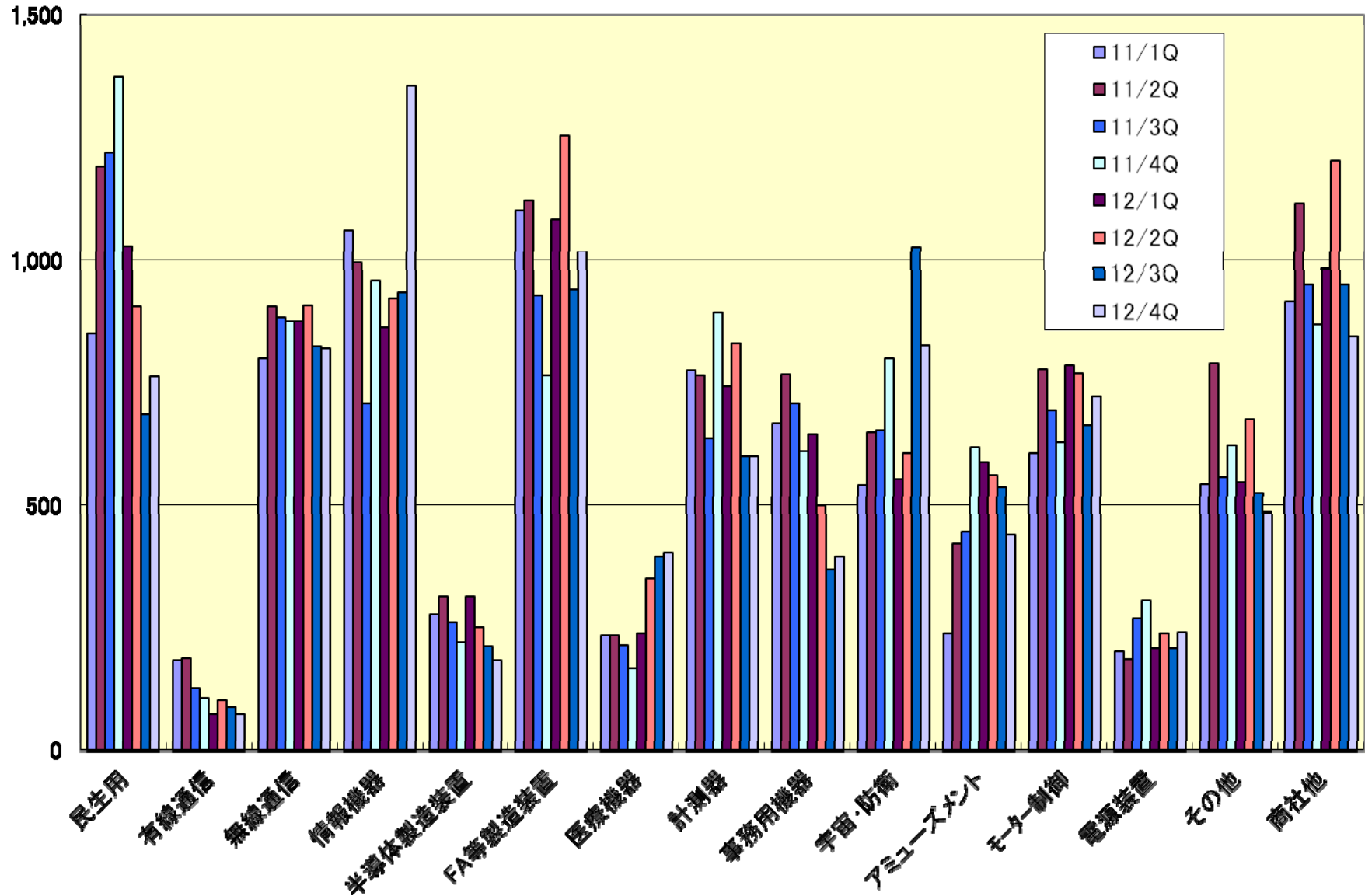
個別半導体	アバゴテクノロジー、フェアチャイルドセミコンダクタ、オンセミコンダクタ、クレー、インフィニオン、
アナログIC	アナログデバイセズ、テキサスインスツルメンツ、
メモリIC	マイクロン、サイプレス、
ロジックIC	テキサスインスツルメンツ、サイプレス、ラティスセミコンダクタ、オンセミコンダクタ、ステップテクニカ、
CPU/DSP	テキサスインスツルメンツ、アナログデバイセズ、

客先別売上比率（単体）

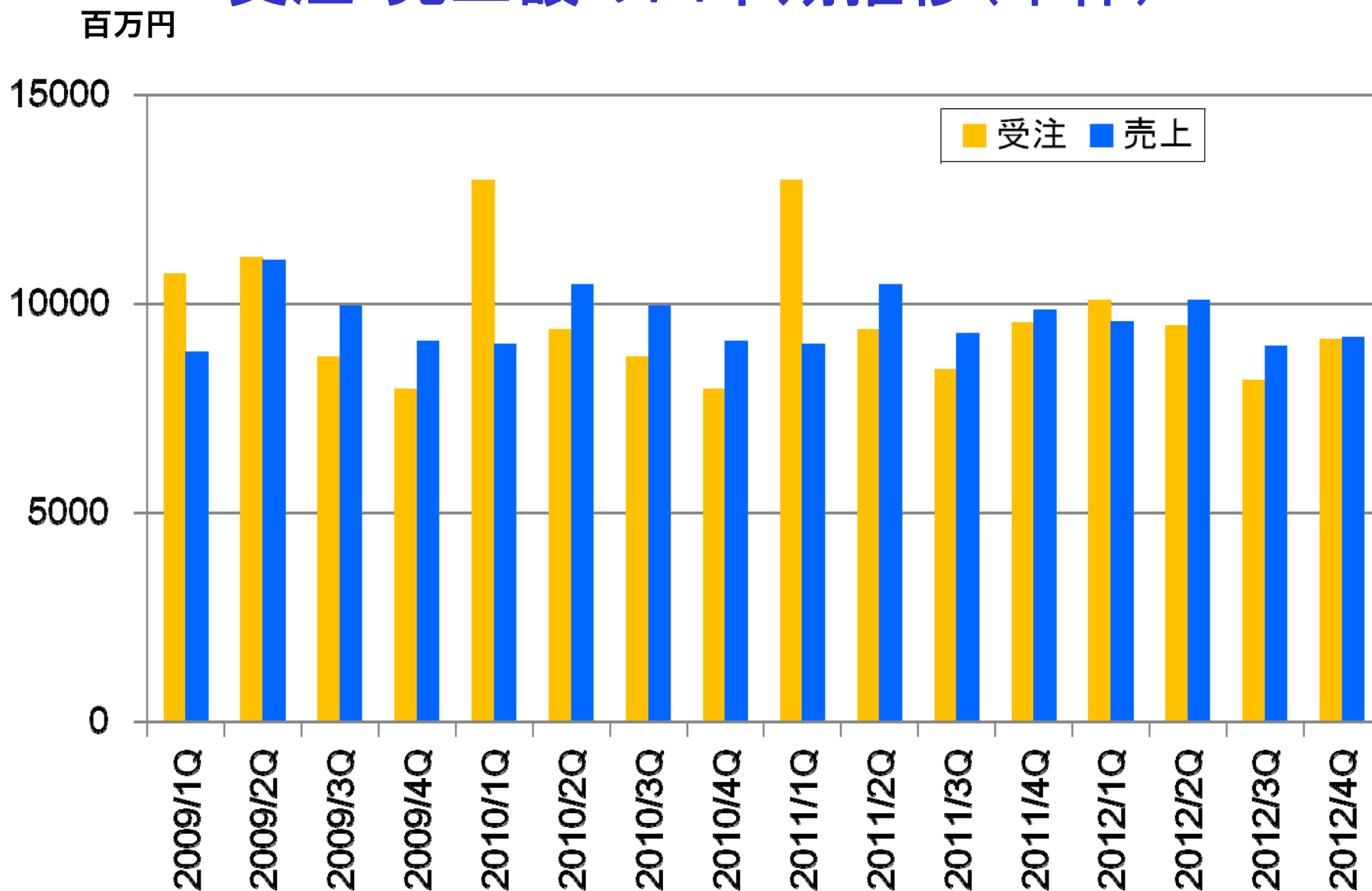


用途別売上高の四半期推移(単体)

単位: 百万円



受注・売上額の四半期推移(単体)



受注・売上の四半期推移(単体)

		百万円	前年比(%)	前四半期比(%)
受 注	2011/1Q	12,952	120.8	162.9
	2Q	9,383	84.5	72.4
	3Q	8,417	96.3	89.7
	4Q	9,553	120.2	113.5
	2012/1Q	10,083	77.8	105.5
	2Q	9,476	101.0	94.0
	3Q	8,162	97.0	86.1
	4Q	9,145	95.7	112.0
売 上	2011/1Q	9,026	101.9	99.3
	2Q	10,456	94.7	115.8
	3Q	9,284	93.3	88.8
	4Q	9,844	108.2	106.0
	2012/1Q	9,557	105.9	97.1
	2Q	10,092	96.5	105.6
	3Q	8,991	96.8	89.1
	4Q	9,200	93.5	102.3

平成25年2月期のまとめ

1. 当期の経済環境は、期初には震災復興への期待と、エコカー補助金等の経済対策により緩やかな回復傾向が見られましたが、欧州債務危機の再燃や中国の景気減速、円高の影響などから企業の設備投資は減速し、年央から再び停滞状況となりました。

半導体業界は、自動車関連やスマートフォン、タブレットPCなどが好調でしたが、昨年後半の設備投資減速から、産業機器市場はまだ具体的な回復の動きが見られない状況です。

2. こうした中、当グループは、主力の産業機器市場の低迷と、予定していた商流移管のずれ込みから、通期予想の達成は厳しい状況とみて1月に業績予想を下方修正いたしました。

その結果、連結では、予想比で売上は1.4%増、経常利益は1.0%増となり、単体では、予想比で売上は2.3%増、経常利益は13.5%増となりました。

連結子会社は、米国が衛星関連向けで大変好調でしたが、アジアはやや減少、国内子会社は厳しい結果でした。

子会社合計では、前期比で 売上は17.0%減、経常利益は0.8%減となりました。

平成25年2月期のまとめ

3. 用途別では、

FA製造装置・計測器など主力の産機市場向けは、後半に設備投資の減速で伸び悩んだことから横ばいでしたが、医療機器向け、アミューズメント向け、宇宙・防衛向けは、大幅に増加しました。

一方、デジカメやカーナビなど民生機器や事務用機器向けは、商流放出や景気低迷の影響もあり、大幅に減少しました。

新中期目標の進捗と今後の展開

- ⇒ 前期は、複数仕入先において商流獲得などあったものの、半導体市場減速・業界競争の激化が想定以上に進み、結果として減収減益。
- ⇒ 新中期目標の連結売上500億の今期達成は、残念ながら困難。
- ⇒ 今期は、こうした業界環境の大きな変化を踏まえ、新中期目標を見直した「富士エレ再成長プラン」を策定し、再成長に向け抜本的な取り組みで臨む。

富士エレ再成長プラン

【目 標】

連結売上高500億円の早期達成。

【重点戦略】

1. 強みである産機分野、中堅・中小客先向けの販売強化
2. 車載市場およびパワー半導体市場で本格的な開拓
3. アジア地区の営業拡大戦略の実行

平成26年2月期 基本方針

「まず増収・増益必達、着実な成長軌道へ」

- ✓ 連結売上高 420 億（前年比 103.6%）
- ✓ 連結経常利益 29.2 億（前年比 105.9%）

平成26年2月期 重点課題

- [1] 主要仕入先との連携強化による拡販
- [2] 車載市場の戦略的開拓
- [3] パワー半導体の本格拡販
- [4] アジア地区営業拡大戦略の強化・実行

平成26年2月期 連結予想

単位：百万円

	平25/2	平26/2	
			前期比
売上高	40,550	42,000	103.6
粗利率	18.2	18.8	
営業利益	2,117	2,600	122.8
経常利益	2,757	2,920	105.9
当期純利益	1,690	1,810	107.1

平成26年2月期 単体予想

単位：百万円

	平25/2	平26/2	
			前期比
売上高	37,842	39,000	103.1
粗利率	16.6	17.0	
営業利益	1,781	2,130	119.5
経常利益	2,610	2,630	100.8
当期純利益	1,786	1,680	94.0

WSTS(世界半導体市場統計)市場予測

伸び率:%

市場	予測	10年	11年	12年	13年	14年
日本 (円)	12/6月	14.1	△16.3	1.0	6.2	4.0
	12/11月			△2.7	2.7	4.4
世界 (\$)	12/6月	31.8	0.4	0.4	7.2	4.4
	12/11月			△3.2	4.5	5.2
野村證券	13/1月			△3.9	4.5	

平成26年2月期 業績見通し(まとめ)

1. 日本経済は昨年末からの円安と株高の進行で企業業績に好転の兆しも見え、世界経済も欧州債務危機はあるものの、米国や中国の景気回復期待など、緩やかな回復が見込まれます。

半導体市況も、まだ足元では厳しい状況がみえますが、最悪期は脱したと考えられ、2013年はゆるやかな回復が予測されています。

こうした中、今期は、当社は再成長プランの初年度として、まず増収増益の必達を念頭に予算の設定に留意しました。

2. 単体は、主力のFA製造装置や計測器など産機向けが設備投資の復調や商流移管などで増加、前期減少した民生機器向けの回復、情報機器向けの堅調継続などを見込んでおります。
3. 子会社も、米国の宇宙関連向けの堅調継続、アジア、国内各社も回復を見込んでおります。

最近のトピックス(1)

オンセミ(三洋半導体)商流の獲得

- オンセミコンダクター社が買収した、元 三洋半導体事業部の販売先を獲得。
(昨年下期の移管予定がスライド)
- 当社は大手電機(車載向け)、大手電子機器メーカーなどを新たに担当。今期は8億円の上乗せを見込む。

最近のトピックス(2)

オンセミ、アジア地区代理店権の獲得

- ・オンセミのアジア地区代理店契約を締結。
- ・今後、IN-OUTビジネスの顧客拡大、さらに海外での直接取引
OUT-OUTによる新規顧客開拓が狙える
- ・他メーカーでもアジアでの商権獲得を計画中。
- ・これに伴い、海外現地法人のオペレーション、サポート体制
充実を図る。

最近のトピックス(3)

新規商材の獲得

○ フェニックス・コンタクト

- ・ドイツのコネクターメーカー。1923年設立。
- ・産業用コネクターの専門大手。
- ・半導体以外の電子部品への展開の第一弾
- ・当社産機客先への併売戦略を展開

○ U-BLOX

- ・スイスのGPS&ワイヤレス半導体メーカー。1997年設立。
- ・GPSチップ、モジュールを他の代理店から引継ぐ客先、さらに当社の産機、車載顧客をターゲットに売り込み

本日はありがとうございました。

今後とも、よろしく御願いたします。